

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	加東市東条地域小中一貫校	階数	地上5F
建設地	兵庫県加東市天神1502番地他13筆	構造	RC造
用途地域	指定なし	平均居住人員	700人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,600時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 0.0	評価の実施日	2019年3月5日
敷地面積	15,265 m ²	作成者	福田瑞穂
建築面積	4,949 m ²	確認日	
延床面積	13,475 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	中庭を取り巻くように校舎を配置し、自然採光と自然換気を促進するとともに、普通教室を全室南向きに配置するなど省エネかつ快適な学習環境の確保に努めている。また、体育館を教室棟と一体とすることで利便性を高めつつ、明確にゾーン分けを行うことで遮音性も配慮し、快適な学習環境を確保している。	
その他	計画敷地は地域景観の主要な要素である東条川に面しており、周囲に大きな建物が少なく、遠方からの視認性が高い立地となっていることを十分に考慮し、地域景観になじむアースカラーの外壁色を採用するとともに、凹凸のある外	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
教室には空調設備を配備するが、極力自然エネルギーを利用できるよう教室配置を工夫している(上述)。また、直射日光の進入抑制や外壁の防汚、転落防止などに有効なバルコニーや庇を各所に設置している。	中庭を取り巻くように教室を配置した回遊型プランを採用し、廊下に面して階段を分散配置することで、利便性と避難時の安全性を向上している。階段と合わせてゆとりのあるPS・EPSをバランスよく配置	敷地内については十分な緑化を行うほか、学校敷地と隣接するように都市公園を整備し、地域アメニティの向上と緑化による景観形成およびヒートアイランド防止に貢献する計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物のピット部分を活用したクールヒートチューブを経由した外気導入システムを採用し、自然エネルギーを活用した快適性の向上を図ることで、空調設備の運転時間の短縮を図っている。クールヒートチューブは体育館を避難所として活用する際にも、空調設備に頼らない居住環境の確保	廊下に面した壁内装、フローリング、家具類など、内部の木質化を促進している。	敷地境界線から校舎を極力セットバックすることで、周囲への圧迫感の軽減と、風害の発生を抑制している。ガラス面の多い学校建築であるが、バルコニーや庇の設置、アウトフレーム工法などによりガラス面の反射を抑制し、周囲への光害の発生を抑制している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される